

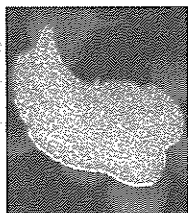
31

科学

13版

科学

平板動物、能登半島に



写真の個体は
大きさ約1ミリ
＝筑波大提供

奇妙な生き物として知られる「平板動物」が、国内の海に広く生息していることを筑波大の中野裕昭助教（進化発生学）が突き止めた。熱帯や亜熱帯の海を中心に分布すると考えられて

冷たい海でも生息の可能性

いたが、より高緯度の冷たい海にも生息する可能性があるという。英科学誌サイエンティフィック・リポートに論文が掲載された。平板動物は、海中の岩の表面などにすむ。平たい体形で直径は0.5〜3ミリ。胃や腸などの消化器、神経細胞や筋肉細胞もない単純で原始的な動物。他のどの動物のグループにも属さな

い。分裂して増えるが、卵も産む。成長過程などは謎に包まれている。

国内では沖縄県や和歌山県、静岡県などで分布が報告されていた。今回、中野助教は能登半島や房総半島、三重県の菅島など調査した全6海域で採取した。

中野助教は「東北や北海道でも調査をして分布を詳しく調べると同時に、DNA解析で多様性も明らかにしたい」と話している。

(山本智之)